

## I 学校の概要

「明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト」事業

### 高松市立牟礼南小学校



#### ◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
1学級 22名	1学級 26名	1学級 18名	1学級 26名	1学級 26名	1学級 26名	3学級 12名	9学級 156名

○教員数 19名

#### ◆学校の特色

本校は、学校目標「ふるさとを愛し、ともに未来を切り拓く児童の育成」を掲げ、「夢」を育み、「思いやりや絆」を深める『楽しい学校』をめざし、教職員・保護者・地域が一体となり、誰一人取り残すことなく、すべて児童が前向きに自分の夢や課題にチャレンジできる学校づくりに取り組んでいる。

児童が主体的に活動し、自分の思いを前向きに表現できる環境を整えるために、教職員の意識改革に取り組み、従来のカリキュラムを見直し再編することで、真に子どもと向き合う時間の確保に努め、対話を重ねることで、人間関係を構築するなど、確かな児童理解に努めている。

今年度は、不登校、心の安定と居場所づくり対策として、スクールサポートルーム（ひだまりルーム）を整備、担当教諭も常駐し、児童の心の安定を図り、希望をもって明日を迎える環境づくりに取り組んでいる。



【野菜づくり名人による  
野菜作り体験】



【全校生に呼びかけ  
アルミ缶回収】



【子ども民生委員の委嘱を  
受け訪問活動】



【ふれあい班に分かれての  
ふれあい班清掃】



【架け橋プログラム  
はらこども園との交流活動】



【6年生による学校のきまり  
改正の提案プレゼン】

## Ⅱ 研究主題等

研究主題

# 『どんどん前向きになる環境づくり』 ～3つの視点で TRY & SHARE～

### ◆研究主題設定の理由

本校では、R3～R5まで、生活・総合の研究・実践に取り組んだ。その成果として、児童や教師が探究的な学びの充実を積み重ねることができた。一方で、自らの学びや他者との関わりの中で当事者意識がもてず後ろ向きさが散見される児童もいた。課題を自分事として捉え、前向きに課題解決に取り組む姿こそ、本校がめざす児童の姿ではないかと昨年度から研究主題を「どんどん前向きになる環境づくり」と設定した。

本校が考える「前向きさ」とは、物事を肯定的、積極的にとらえる姿勢である。この力は、Agency（自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力）にもつながるものであり、多様な価値観がうずまく社会を生き抜く力や、学校教育における「学び」を支える上でも重要であると考えている。今後の研究・実践を通して、児童も保護者も教師も「明日も来たくなる（行かせたくなる・働きたくなる）」三方よしの楽しい学校づくりに迫っていきたいと考える。

### ◆研究内容及び方法

#### 【3つのプロジェクト】

#### ①いじめ等のない安心して学べる学校づくり

- ・褒めて認める教育を推進することで、自己肯定感や自尊感情の醸成を図る。
- ・確かな児童理解に努めることで、個の特性や悩みを把握するなど生徒指導の充実を図る。
- ・いじめ撲滅に向け、「いじめは許さない」という思いを全教職員と児童で共有する。  
(未然防止、早期発見・対応、事後見守りのための具体的な方策を共通理解し実践する。)

#### ②心の小さなSOSの早期発見・早期対応

- ・安心安全な学級づくりを展開するために、校内環境の整備・充実を図る。(心理的・物理的)
- ・いじめアンケート等の分析、日常の担任との会話、スクールカウンセラーとの面談などを通して、校内に児童一人ひとりの居場所を確保し、寄り添った適切な関わりを行う。
- ・児童会や保健委員会が中心になり、「心の健康増進」に関わる取り組みを実践する。
- ・スクールサポートルーム(ひだまりルーム)の効果的な活用と担当教諭の役割
- ・スクールカウンセラーの効果的な運用(年間60時間)

#### ③児童生徒が不登校とならない、児童生徒にとって魅力ある学校づくり

- ・全校児童が縦割りで行う、「ふれあい班清掃」など、児童が計画や運営に主体的に取り組む「ふれあい班活動」の充実を図る。
- ・地域人材を生かし、児童が主体的に課題を解決する「あけまち学習」の充実を図ることで、地域に誇りをもち、地域を愛する心情を育てる。

#### 【研究仮説】

上記の「いじめの撲滅」「心の安定・居場所づくり」「不登校対策」は、当然重要な項目であるが、児童が「明日も来たい!」と感じるのは、それらも含めて安心して自分が、自分らしく、輝ける場所が確保されている「楽しい学校」なのではないかと本校は捉えている。

楽しい授業づくりのための工夫、信頼できるなかまづくりのための工夫、協働しチームとして高め合える教師集団の構築、掲示物、教材の配置、照明等、学校のあらゆる空間の工夫など、全教職員が「教材・活動・空間」の視点で授業づくり、コミュニティづくりに前向きに取り組んでいくことで、前向きな児童が育ち、「明日も来たい!楽しい学校」の姿が実現していくと信じている。